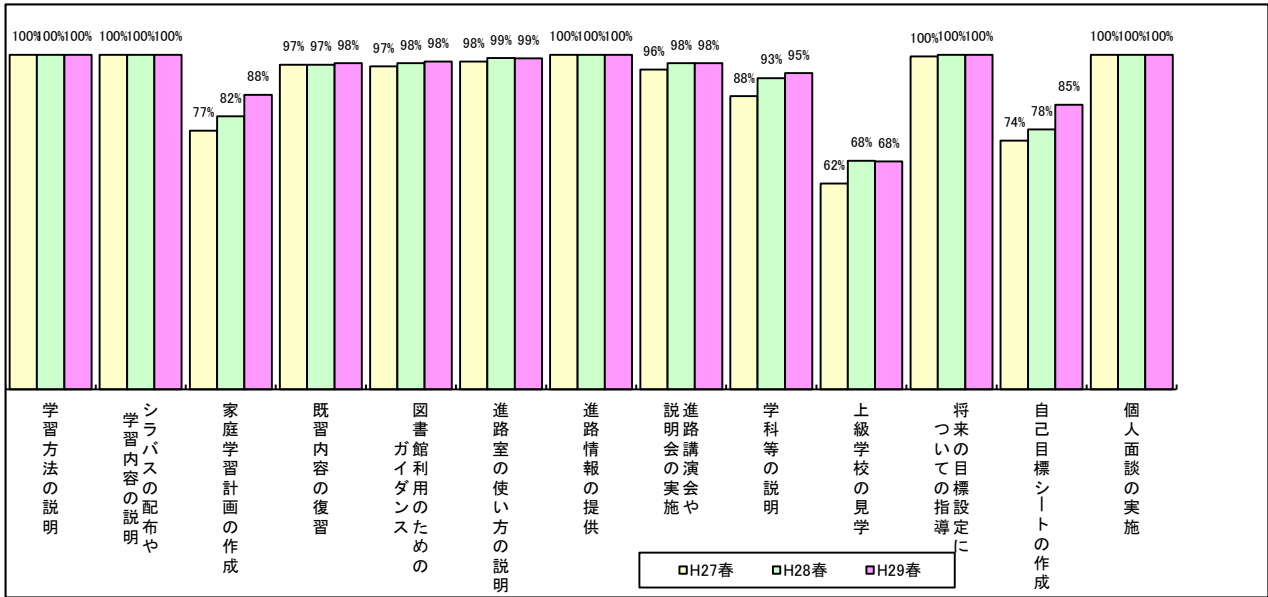


「北海道春の学び推進月間」(H29/4/1~4/30)における取組



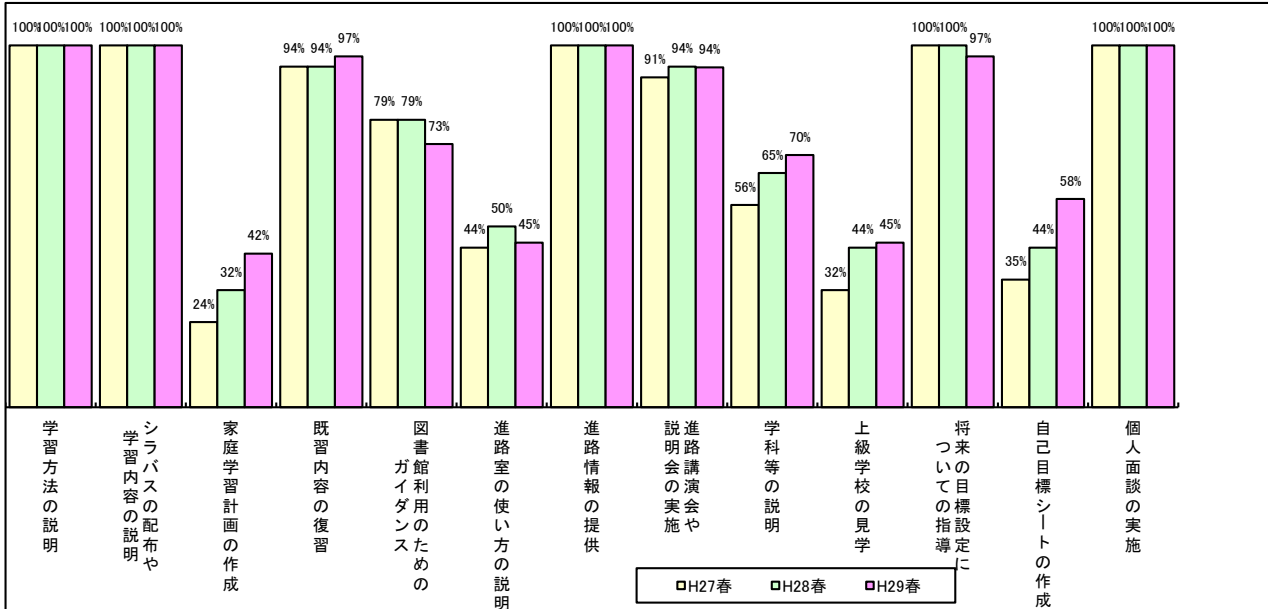
1 道立高校(全日制)の取組予定 201校(中等教育学校を含む)



○ その他特徴のある取組

- ・家庭学習時間調査の実施
- ・職員室前に自習スペースの設置
- ・大学と連携したeラーニングの実施
- ・進学資金、奨学金説明会の実施
- ・新刊図書の紹介
- ・生徒の学習サポートのための教職員研修の実施
- ・進路システム手帳の作成
- ・近隣校と連携した進路相談会の実施
- ・卒業生や上級生による合格体験講話、懇談会の実施
- ・就職促進会への参加
- ・ハローワークと連携した模擬面接の実施
- ・進路キャリアカルテの作成

2 道立高校(定時制)の取組予定 33校



○ その他特徴のある取組

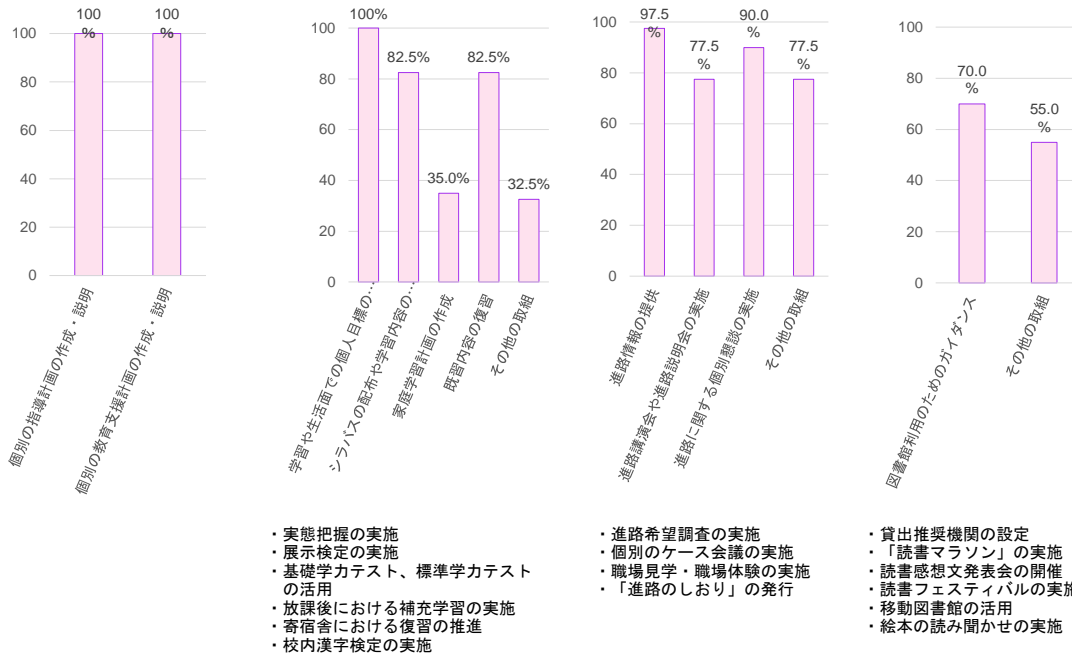
- ・基礎力診断テスト等の実施
- ・職業人インタビューの実施
- ・始業前及び放課後補習の実施
- ・若者サポートステーションと連携した進路相談の実施
- ・進路相談月間の設定
- ・企業見学の実施

- 「学習方法の説明」、「シラバスの配布や学習内容の説明」、「進路情報の提供」、「個人面談の実施」はすべての高校が取り組んでいる。
- 全日制、定時制とも、「家庭学習計画の作成」及び「自己目標シートの作成」に取り組む予定の学校が増加している。

3 道立特別支援学校の取組予定状況 65校

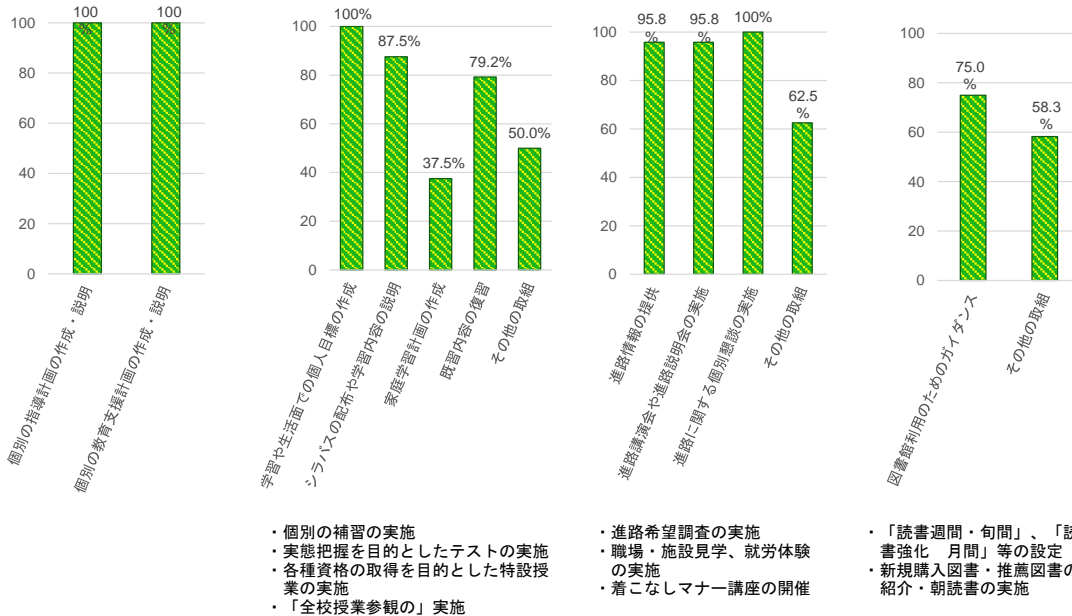
1 小・中学部設置校における取組 (40校)

■ 小・中学部を置く特別支援学校（視覚障がい3校、聴覚障がい5校、知的障がい1校 計9校）
 ■ 小・中・高等部を置く特別支援学校（視覚障がい1校、知的障がい21校、肢体不自由6校、病弱1校、肢体不自由・病弱1校、聴覚障がい・知的障がい1校の計31校）



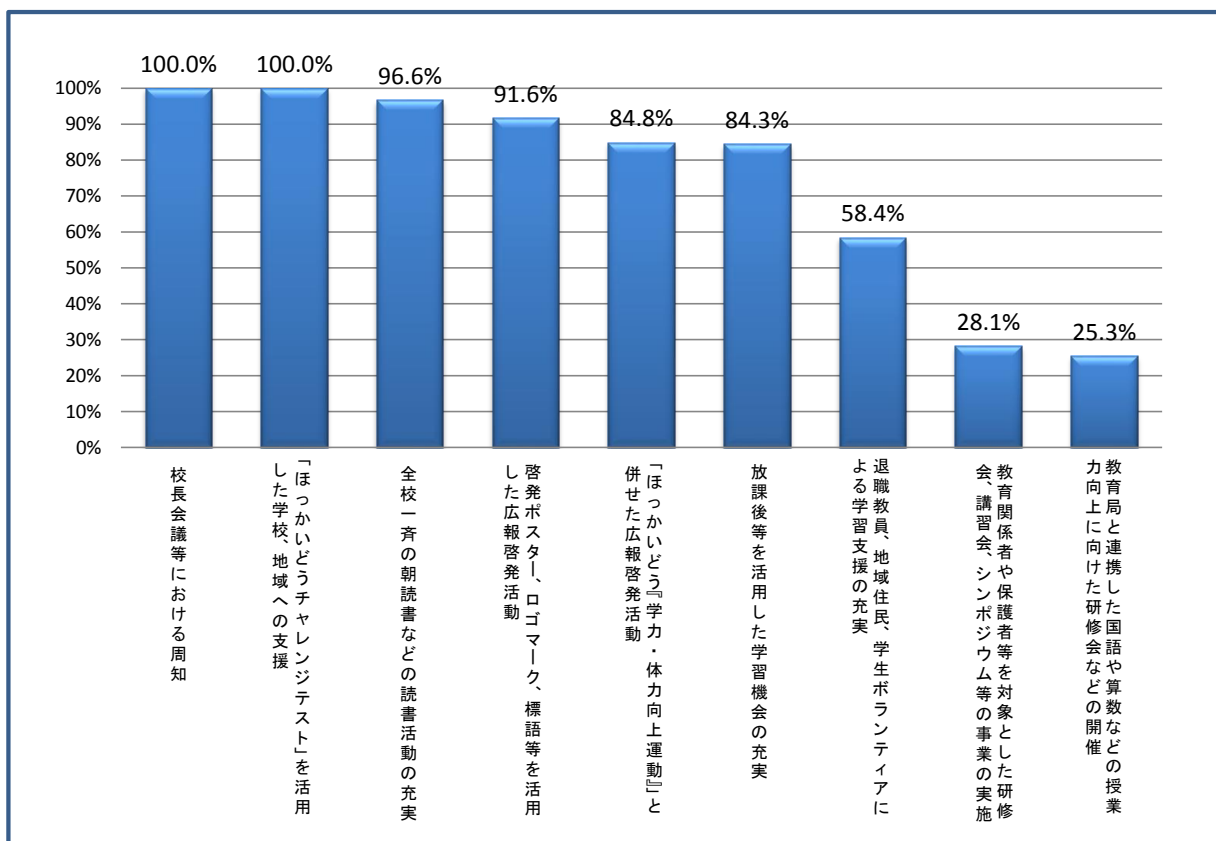
2 高等部のみを設置している特別支援学校 (25校)

■ 高等部単置の特別支援学校（聴覚障がい1校、知的障がい23校、肢体不自由1校）



- 春の学び推進月間の取組については、全65校で実施予定である。
- 全ての特別支援学校において、「個別の指導計画」、「個別の教育支援計画」の作成・活用が100%であるなど、一人一人の障がいや発達の状態に応じた指導の充実が図られている。
- 「家庭学習計画の作成」、「既習内容の復習」が、小・中学部設置校、高等部単置校の両方で昨年度より増加するなど、各校において、具体的な取組が進んでいる。
- 小・中学部設置校では、「図書館利用のためのガイダンス」が昨年度より増加しているほか、「貸出推奨機関の設定」、「『読書マラソン』の実施」など、各校に在籍する児童生徒に応じた取組が行われている。
- 高等部単置校では、「進路に関する個別懇談の実施」が100%となるなど、進路にかかわる取組が充実しつつある。

4 市町村教育委員会の取組予定 178市町村



【その他特徴のある取組（予定）例】

- 幼小中連携、一貫教育の推進
- 児童生徒、保護者を対象にしたネット利用に関する実態調査の実施
- 保護者を対象にした全国学力・学習状況調査説明会の開催
- 幼稚園、小・中・高等学校教員合同での指導方法工夫改善に関する研修会の実施
- 教育関係者、保護者、地域住民を対象にした公開授業などを行う研究大会の開催
- 家庭及び児童生徒向けの生活習慣・学習習慣についての啓発資料の全校配付
- ウィークエンドスクールの実施
- 学校図書館司書の全校配置
- 退職教員や高校生等、地域の教育力を活用した学習サポートの実施

【まとめ】

- 春の学び推進月間の取組については、178市町村全てで実施予定である。
- 「校長会議等における周知」、「『ほっかいどうチャレンジテスト』を活用した学校、地域への支援」については、昨年度の取組と同様に実施予定が100%である。
- 「全校一斉の朝読書などの読書活動の充実」、「啓発ポスター、ロゴマーク、標語等を活用した広報啓発活動」などの実施予定率が高い。
- 「教育局と連携した国語や算数などの授業力向上に向けた研修会などの開催」、「教育関係者や保護者等を対象とした研修会、講習会、シンポジウム等の事業の実施」の実施予定率が低い。